

令和2年度 学校法人浅井学園 事業報告

1、法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人浅井学園

② 主たる事務所の住所

北海道江別市大麻宮町8番地

③ 電話番号

011-386-5016

④ FAX番号

011-802-6026

⑤ ホームページアドレス

認定こども園大麻まんまるこども園 … <http://www.ooasa.ed.jp/>

認定こども園第2大麻こども園 … <http://www.dai2-ooasa.net/>

北海道ドレスメーカー学院 … <http://www.doreme.ac.jp/>

旭川調理師専門学校 … <https://www.asacho.ac.jp/>

(2) 建学の精神

愛（思いやり）と和（協力、協調性）の心を育む。

(3) 学校法人の沿革

1971年11月 学校法人北海道浅井学園創立。

1972年 4月 大麻幼稚園（現：認定こども園大麻まんまるこども園）開園。
旭川調理師専門学校開校。

1974年 4月 第2大麻幼稚園（現：認定こども園第2大麻こども園）開園。

2011年 4月 サンサンキッズ開所。

2019年 4月 第2サンサンキッズ開所。

北海道ドレスメーカー学院の設置者が当法人に変更。

なお、北海道ドレスメーカー学院は1939年開学、2019年9月をもって創立80周年となる。

法人名を浅井学園に変更。

現在に至る（認定こども園2園、専門学校2校、学童保育所2施設を運営）

(4) 設置する学校・学部・学科等

認定こども園大麻まんまるこども園

認定こども園第2大麻こども園

北海道ドレスメーカー学院 ファッション総合学科、専攻科、夜間科

旭川調理師専門学校 調理師養成科

学童保育所サンサンキッズ

学童保育所第2サンサンキッズ

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況及び充足率

認定こども園大麻まんまるこども園

	1号認定				2号認定			3号認定			合 計
	満3歳	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	0歳	1歳	2歳	
定 員	-	50名	50名	50名	10名	10名	10名	6名	9名	12名	207名
	150名				30名			27名			
H31(R1)	3名	39名	52名	49名	10名	8名	10名	3名	9名	12名	195名
	143名				28名			24名			
R2	7名	39名	38名	56名	12名	17名	12名	6名	9名	12名	208名
	140名				41名			27名			
R3	5名	43名	42名	43名	12名	12名	17名	4名	12名	12名	202名
	133名				41名			28名			
定員充足率	88.7%				136.7%			103.7%			97.6%

認定こども園第2大麻こども園

	1号認定				2号認定			3号認定			合 計
	満3歳	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	0歳	1歳	2歳	
定 員	-	48名	48名	48名	8名	8名	8名	3名	4名	5名	180名
	144名				24名			12名			
H31 (R1)	11名	38名	44名	59名	7名	7名	8名	3名	4名	5名	186名
	152名				22名			12名			
R2	16名	43名	39名	48名	8名	10名	8名	3名	4名	5名	184名
	146名				26名			12名			
R3	13名	47名	51名	43名	8名	8名	10名	1名	4名	6名	191名
	154名				26名			11名			
定員充足率	106.9%				108.3%			91.7%			106.1%

北海道ドレスメーカー学院

	ファッション総合学科		専攻科 (3年生)	夜間科	合 計
	1年生	2年生			
定 員	30名	30名	20名	20名	100名
H31 (R1)	24名	20名	11名	5名	60名
R2	27名	19名	15名	3名	64名
R3	35名	22名	10名	14名	81名
定員充足率	116.7%	73.3%	50.0%	70.0%	81.0%

旭川調理師専門学校

	1年生	2年生	合 計
定 員	40名	40名	80名
H31 (R1)	34名	36名	70名
R2	18名	33名	51名
R3	29名	18名	47名
定員充足率	72.5%	45.0%	58.8%

サンサンキッズ (新園舎内)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
定 員	35名						35名
H31 (R1)	11名	20名	2名	9名	0名	0名	42名
R2	15名	9名	14名	2名	5名	0名	45名
R3	9名	15名	8名	7名	5名	0名	44名
定員充足率							125.7%

第2サンサンキッズ (トムテハウス)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
定 員	20名						20名
H31 (R1)	13名	2名	19名	1名	4名	0名	39名
R2	15名	13名	2名	10名	0名	3名	43名
R3	7名	14名	7名	4名	7名	0名	39名
定員充足率							195.0%

(6) 役員の概要

職 名	氏 名	勤務 状況	最新就任 年月日	選任区分	現在の職業	
定 数 7 実 数 2	理事長	浅井洋子	常勤	H28.6.21	第6条2号	学校法人浅井学園理事長
	理事	金井英明	非常勤	H28.6.8	第6条3号	(有)イルミネージュ代表取締役
	理事	石田泰子	非常勤	H28.6.8	第6条3号	石田企画代表
	理事	宮崎善昭	常勤	H29.1.8	第6条1号	認定こども園大麻まんまるこども園長
	理事	近江さつき	常勤	H28.6.8	第6条1号	認定こども園第2大麻こども園長
	理事	浅井学	常勤	H28.6.8	第6条1号	北海道ドレスメーカー学院長
	理事	前川原春吉	常勤	H29.4.1	第6条1号	旭川調理師専門学校長
定 数 2 実 数 2	監事	本間克夫	非常勤	H28.6.8	第8条	本間克夫税理士事務所
	監事	谷川幸雄	非常勤	H28.6.8	第8条	-

(7) 評議員の概要

		氏名	勤務 状況	最新就任 年月日	選任区分	現在の職業
定 数 1 5	評議員	浅井洋子	常勤	H28.6.8	第22条3号	学校法人浅井学園理事長
	評議員	前川原春吉	常勤	H28.6.8	第22条2号	旭川調理師専門学校校長
	評議員	近江さつき	常勤	H28.6.8	第22条1号	認定こども園第2大麻こども園長
	評議員	浅井学	常勤	H28.6.8	第22条3号	北海道ドレスメーカー学院長
	評議員	金井正治	非常勤	H28.6.8	第22条3号	㈱アトリエ陶代表取締役
	評議員	和田王三	非常勤	H28.6.8	第22条3号	和田・下津谷法律事務所長
	評議員	大木桂子	常勤	H28.6.8	第22条3号	認定こども園第2大麻こども園副園長
	評議員	川村明美	常勤	H28.6.8	第22条3号	北海道ドレスメーカー学院副院長
	評議員	齊藤佐知子	非常勤	H28.6.8	第22条3号	江別市議会議員
	評議員	市橋さゆり	常勤	H28.6.8	第22条3号	旭川調理師専門学校教頭
	評議員	川村道夫	常勤	H28.6.8	第22条3号	学童保育所指導員
	評議員	宮崎善昭	常勤	R1.5.24	第22条1号	認定こども園大麻まんまるこども園
	評議員	小林治	非常勤	R1.11.1	第22条3号	札幌商工会議所所属、但し個人として就任
	評議員	森忠裕	非常勤	R2.1.14	第22条3号	(株)ヤブシタ代表取締役社長
	評議員	大内勉	非常勤	R2.1.14	第22条3号	(株)池田歯車製作所取締役、但し個人として就任

(8) 教職員の概要

	人数	平均年齢	
本務	48名	43.4歳	※常勤
兼務	42名	47.4歳	※非常勤
合計	90名	46.4歳	

2、事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

- ① 専門学校…2校の運営。実践を想定した実習指導により即戦力を養い、行事を通して協調性や目標達成による喜びを体感させる。
- ② 認定こども園…2園の運営。縦割り保育により「愛」と「和」を育てて自立を目指す。

(2) 中期的な計画

長期に渡り健全な運営が行えるようそれぞれの施設において定員充足を目指す。
また、認定こども園大麻まんまるこども園舎は平成22年度に建設、令和2年度で10年が経過する。
耐用年数を30年として減価償却しているが、建築資材及び人件費の高騰もあるため、第2号基本金への組入を行う。

3、財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
固定資産	865,569,201	1,199,557,586	1,217,755,830	1,745,710,743	1,716,825,120
流動資産	287,631,077	447,122,419	324,021,508	586,881,725	646,739,313
資産の部合計	1,153,200,278	1,646,680,005	1,541,777,338	2,332,592,468	2,363,564,433
固定負債	40,360,000	120,200,000	79,840,000	68,920,000	58,840,000
流動負債	78,055,563	201,620,586	97,538,061	89,422,202	93,819,709
負債の部合計	118,415,563	321,820,586	177,378,061	158,342,202	152,659,709
基本金	719,608,150	1,407,823,265	1,419,260,918	2,070,784,957	2,107,133,443
繰越収支差額	315,176,565	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309	103,771,281
純資産の部合計	1,034,784,715	1,324,859,419	1,364,399,277	2,174,250,266	2,210,904,724
負債及び純資産の部合計	1,153,200,278	1,646,680,005	1,541,777,338	2,332,592,468	2,363,564,433

②資金収支計算書関係

資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

		H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
収入の部	学生生徒納付金収入	126,618,500	131,280,320	144,666,560	141,433,920	143,063,100
	手数料収入	1,333,600	1,336,700	1,664,860	2,007,494	2,132,584
	寄付金収入	0	0	0	241,330,254	0
	補助金収入	203,517,764	446,641,826	222,340,297	276,083,683	331,009,614
	資産売却収入	0	80,000	10,000	0	0
	付随事業・収益事業収入	5,262,000	4,938,000	4,980,929	9,274,356	7,707,688
	受取利息・配当金収入	70,506	16,882	2,656	128,567	188,139
	雑収入	27,427,732	9,343,349	11,640,952	19,077,089	12,275,153
	借入金等収入	0	200,000,000	0	0	0
	前受金収入	52,330,000	58,663,505	54,069,500	63,439,000	70,754,000
	その他の収入	83,429,937	390,548,523	91,289,801	108,760,228	98,076,724
	資金収入調整勘定	-69,524,796	-78,434,912	-74,787,485	-71,627,599	-87,644,375
	前年度繰越支払資金	235,754,864	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626
	収入の部合計	666,220,107	1,433,816,474	876,895,577	1,097,804,520	1,146,886,253
支出の部	人件費支出	210,429,009	198,466,509	218,507,235	274,752,205	295,970,478
	経費支出	75,954,019	81,324,274	84,528,425	110,283,812	121,149,315
	借入金等利息支出	594,755	752,554	380,601	454,938	367,918
	借入金等返済支出	10,080,000	9,240,000	150,440,000	10,920,000	10,080,000
	施設関係支出	21,792,054	668,418,378	55,467,871	34,191,875	3,495,500
	設備関係支出	2,307,764	338,105	5,080,508	1,346,565	9,852,986
	資産運用支出	53,331	0	0	0	0
	その他の支出	79,318,106	63,866,078	74,678,997	102,101,559	87,964,666
	資金支出調整勘定	-3,711,212	-9,606,931	-20,085,588	-5,570,060	-2,795,598
	翌年度繰越支払資金	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988
	支出の部合計	666,220,107	1,433,816,474	876,895,577	1,097,804,520	1,146,886,253

活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	364,159,596	364,956,195	385,293,598	676,206,796	495,483,589
教育活動資金支出計	309,726,351	279,790,783	303,035,660	385,036,017	417,119,793
差引	54,433,245	85,165,412	82,257,938	291,170,779	78,363,796
調整勘定等	-8,879,974	4,353,108	15,865,584	7,445,899	-3,839,688
教育活動資金収支差額	45,553,271	89,518,520	98,123,522	298,616,678	74,524,108
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	0	540,413,062	0	0	704,550
施設整備等活動資金支出計	24,099,818	668,756,483	60,548,379	35,538,440	13,348,486
差引	-24,099,818	-128,343,421	-60,548,379	-35,538,440	-12,643,936
調整勘定等	0	0	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	-24,099,818	-128,343,421	-60,548,379	-35,538,440	-12,643,936
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	21,453,453	-38,824,901	37,575,143	263,078,238	61,880,172
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	78,896,833	260,292,290	65,197,545	90,561,295	81,257,114
その他の活動資金支出計	90,046,192	69,852,163	215,892,667	92,213,435	91,659,924
差引	-11,149,359	190,440,127	-150,695,122	-1,652,140	-10,402,810
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	-11,149,359	190,440,127	-150,695,122	-1,652,140	-10,402,810
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	10,304,094	151,615,226	-113,119,979	261,426,098	51,477,362
前年度繰越支払資金	235,754,864	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626
翌年度繰越支払資金	269,402,281	421,017,507	307,897,528	569,323,626	620,800,988

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
教育活動収支					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	126,618,500	131,280,320	144,666,560	155,793,920	143,063,100
手数料	1,333,600	1,336,700	1,664,860	2,007,494	2,132,584
寄付金	0	0	0	775,493,462	0
経常費等補助金	203,517,764	218,057,826	222,340,297	276,083,683	331,009,614
付随事業収入	5,262,000	4,938,000	4,980,929	9,274,356	7,707,688
雑収入	27,427,732	9,343,349	11,640,952	6,077,089	12,275,153
教育活動収入計	364,159,596	364,956,195	385,293,598	1,224,730,004	496,188,139
事業活動支出の部					
人件費	210,429,009	198,466,509	218,507,235	274,752,205	295,970,478
経費	99,297,342	104,330,710	119,755,407	152,800,439	163,383,424
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	309,726,351	302,797,219	338,262,642	427,552,644	459,353,902
教育活動収支差額	54,433,245	62,158,976	47,030,956	797,177,360	36,834,237
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	70,506	16,882	2,656	128,567	188,139
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	70,506	16,882	2,656	128,567	188,139
事業活動支出の部					
借入金等利息	594,755	752,554	380,601	454,938	367,918
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	594,755	752,554	380,601	454,938	367,918
教育活動外収支差額	-524,249	-735,672	-377,945	-326,371	-179,779
経常収支差額	53,908,996	61,423,304	46,653,011	796,850,989	36,654,458
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	67,400	0	0	0
その他の特別収入	0	228,584,000	0	13,000,000	0
特別収入計	0	228,651,400	0	13,000,000	0
事業活動支出の部					
資産処分差額	0	0	7,113,153	0	0
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	0	0	7,113,153	0	0
特別収支差額	0	228,651,400	-7,113,153	13,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額	53,908,996	290,074,704	39,539,858	809,850,989	36,654,458
基本金組入額合計	-580,710	-689,432,622	-21,576,482	-654,087,881	-36,348,486
当年度収支差額	53,328,286	-399,357,918	17,963,376	155,763,108	305,972
前年度繰越収支差額	260,361,538	315,176,565	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309
基本金取崩額	1,486,741	1,217,507	10,138,829	2,563,842	0
翌年度繰越収支差額	315,176,565	-82,963,846	-54,861,641	103,465,309	103,771,281

(参考)

事業活動収入計	364,230,102	593,624,477	385,296,254	1,237,858,571	496,376,278
事業活動支出計	310,321,106	303,549,773	345,756,396	428,007,582	459,721,820

(2) その他

①有価証券の状況

	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
区分				株式	株式
銘柄				(株)北洋銀行	(株)北洋銀行
貸借対照表計上額				6,910,900	6,910,900

②借入金の状況

	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
借入先	北洋銀行札幌西	北洋銀行札幌西	北洋銀行札幌西	北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央
期末残高	49,600,000	40,360,000	0	79,840,000	68,920,000
利率、返済期限	1.1%、10年	1.1%、10年	1.1%、10年	0.5%、10年	0.5%、10年
借入用途、返済期限	旭川調理校舎建設	旭川調理校舎建設	旭川調理校舎建設	第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設
借入先		北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央		
期末残高		100,000,000	89,920,000		
利率		0.5%、10年	0.5%、10年		
借入用途、返済期限		第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設		
借入先		北洋銀行野幌中央	北洋銀行野幌中央		
期末残高		100,000,000	0		
利率		0.5%、6カ月	0.5%、6カ月		
借入用途、返済期限		第2大麻園舎建設	第2大麻園舎建設		

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、イベントや研修などが制限された中での活動となった。

専門学校においては、広報活動が功を奏した事と、コロナ禍で上京を控えた学生が多い事も相まって2校ともに新入学生が増加した。

こども園においては、保護者の方々にご理解ご協力を頂きながら、イベントを分散開催するなどして、例年と比較して遜色なく執り行えた。

今後の課題として、認定こども園の健全運営の継続は勿論のこと、引き続き専門学校の収支改善に取り組みたい。

各施設間で有効な情報の共有、それらを活用した計画立案と目標設定、実行・確認・修正を繰り返しながら達成を目指す。

1. 教育目標

1) 職業教育における特色あるカリキュラムの編成計画

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、4～6月中旬までは自宅学習・遠隔授業を行った。6月下旬からは三密を避けた授業を徹底し、対面授業へと移行。授業の遅れについては、春夏秋冬休みを短縮し対応した。1年生の外国人留学生については、前期を前期で就職先が見つかり、休学となった。

：Dcreation イベントについては、ファッションショーの形式を変更し、プロモーション動画の撮影を行い対応した。カリキュラムは予定通り行うことができた。

2) 関連分野の企業や業界団体等と連携したカリキュラム編成計画

①外部団体との企画事業は、コロナの為延期・中止となった。

②裏参道まつり、北海道メカズはコロナの為中止となった。3/27・28の2日間でモリガレッジが開催され、作品展示を行った。

③札幌地区各イベントは、コロナの為全て中止となった。

④本年度は、学内コパを1件行った：ラーメン屋スタッフTシャツデザインコンペ

3) 職業教育に対する外部関係者評価の編成計画

学生オリジナルブランド発信「：Dcreation」は、コロナの為、ファッションショーの形式を変え、設立したブランドのプロモーション動画の撮影をして、YouTubeで配信を行った。

4) 授業評価の結果を踏まえたカリキュラムの編成計画

：Dcreation イベント時に来られた審査員や、外部講師から授業カリキュラムについてヒヤリングを行い、業界のニーズに即したカリキュラムの在り方を練り直し、次年度に活かすこととした。

5) 資格・検定におけるカリキュラムの編成計画

ファッション教育振興協会が行う検定について、令和2年度より検定期間が大幅にずれ込んだことから、検定受験の時期の見直しを行った。これにより、本来受けさせる予定であった検定を受けられない学生がいた。

6) インターンシップ、東京研修、海外研修についての教育編成計画

本年度は、新型コロナウイルスの影響から東京研修が延期となった。次年度10月を目処に開催する。海外研修も延期した。

7) 関連分野における業界等との連携による教員確保計画

非常勤講師については、本年度の計画を踏襲し教員確保を行い、予定通り終了した。

8) 教員研修計画

パソコン機器入替を行った。新しいソフトウェアの取扱いについて研修を行った。

2. 学生指導の重点

1) 就職支援・指導計画

コロナの影響を強く受け、本年度の就職率は61.54%となった。

2) インターンシップ支援・指導計画

コロナの影響のため、インターンシップは無かった。

3) 企業連携、卒業生と在校生連携・情報交換計画

学外企業説明会は、ZOOM等の遠隔となり、学内企業説明会は中止となった。本学院卒業生による企業説明の場を設けるなど、就業意識の向上を図った。

4) 企業・卒業生訪問計画

コロナの為、企業訪問を行う事が出来なかった。令和3年度より校名が変わることから、企業等関係者に向けた情報の発信を行った。

3. 教育活動の重点

1) 学生相談支援・指導計画

4月はコロナの影響で個人面談は全てZOOM面談となったが、計画通り進めることができた。しかし、従来通りの、対面で人間関係を構築することができないために、迷う学生がいたので、次年度の課題としたい。

2) 学生健康管理支援・指導計画

コロナ対策として、手指消毒、3密を避けた活動の徹底を行った。

3) 学生生活環境支援計画

対面で会話ができないことから、学生生活に不安を抱える学生が多かった。次年度の課題としたい。

4) 保護者との連携計画

本学院HPを利用し、学生達の活躍を積極的に公開した。

5) 卒業生支援計画

再就職相談、職業紹介を継続して行った。

6) ボランティア活動等による社会活動計画

裏参道祭り、ライラック祭りは中止となった。

7) 休学・退学低減計画

各週水曜日を学校閉鎖日とし、長期休みの圧縮を行うなど、休学・退学に効果があると予定していた計画は、全てコロナのため運営できなかった。次年度も継続してこの計画を遂行することとした。

4. 広報活動

1) 進学相談会計画

コロナの為、進学相談会は8割が中止となった。

2) オープンキャンパス計画

4月と5月はコロナの為オープンキャンパスが中止となった。

オープンキャンパス開催日(全13回)

6月21・28日、7月23日、8月30日、9月5・26日、10月24日、11月28日

12月19日、1月29・30日(：Dcreation)、2月27日、3月27日

3) 中学・高校とのキャリア教育・職業教育連携計画

コロナの為、9割中止となった。

4) 大学・短大・専門学校卒業生、社会人向け募集計画

コロナの為、大学等への訪問を自粛、社会人向けにパンフレットを作成し送付した。

5) 入学案内、HP・SNS等による募集計画

本学院の取り組みを、HPニュース・SNS等で積極的に公開した。：Dcreationのプロモーション動画を配信した。

6) 入試制度、奨学制度による募集計画

新奨学金制度については、おおむね混乱も無く計画通り遂行された。

5. 施設設備の改修、充実

①パソコン教室のパソコン入れ替え：予定通り行った。

②教室椅子の入れ替え：次年度に振替。

③教育用消耗品の入れ替え(アイロンマット等)：再来年度に振替。

6. 新採用職員

特になし。

7. その他

年次昇給のストップ、賞与80%支給を行った。

令和2年度 旭川調理師専門学校 事業報告

1. 教育目標

- (1) 特色ある学校
個人の総合能力を高め、他校との違い・旭調の魅力が際立つ記憶に残る学校教育を進める。
- (2) 期待される学校
世界で活躍できるプレゼンテーション能力を身に付け企業が求める人財の育成を進める。
- (3) 支援される学校
地域社会との繋がりを大切にし「食育・食文化」を社会に発信、貢献できる教育を進める。

2. 指導の重点

調理師育成のために徹底指導を強化し、わかる人からできる人の育成を目指す。

- (1) 基礎技術の徹底（基本的な料理が作れ、就職できる技術の習得を目指す）
- (2) 人間教育の徹底（基本的な生活習慣や料理人としての心構えを指導）
- (3) 社会人としてのルールマナーを養う（挨拶のできる人、しきたりを身につける）
- (4) 実践力の徹底（レストラン工房を使用し段取り力、接客・販売力を身につける）
- (5) コミュニケーション力を養う（笑顔で表現する能力を身につける）
- (6) 専門職業分野の進む道を指導（それぞれの適職を探り将来の夢を持つ）

3. 教育の重点

- (1) 新型コロナウイルス感染予防対策の徹底。文科省、厚労省からのカリキュラム変更や実習内容の検討すべき通達事項を受け、職員で協議して時間割の変更を行い、即座に危機管理マニュアルを作成して、緊急事態宣言を受けた4/20～5/15までの期間だけ休校のみで、夏休み、冬休みも通常通り学生に取らせてあげることが出来た。
- (2) コロナ禍により、レストラン実習や地域イベントが中止となってしまう、実践力を養う機会が例年より少なくなってしまうが、感染予防対策を講じながら出来ることを実施。この状況だからこそ、安心・安全な食の提供について学び、実践することができた。
 - ・地域イベントがすべて中止となったため、校内にて学生・職員対象の学食レストラン、保護者・近隣の方対象の販売会を実施(70万円)
 - ・学校祭では野外テントブースとドライブスルー形式での販売会を実施(20万円)
 - ・卒業記念レストランではテイクアウトでの「ありがとうBOX」予約販売実施(40万円)
- (3) 沖縄での国内研修を計画していたが感染状況を踏まえて、道内の函館研修へと予定を変更して11月にGOTOを利用し実施することが出来た。
- (4) 稚内漁協組合から約230,000円分の海産物（鮭20本・ホタテ50枚・タコ3杯・昆布10kg・ヒラメ3枚）を提供していただき、漁連の方々にそれらについての講義も同時に実施した。
- (5) 東京水産庁から約500,000円分の海産物（鰯、帆立、なめた鱈）を提供していただき調理実習授業の教材として活用することができた。
- (6) 令和3年1月末、札幌市水産課から食べ比べをしてほしいとの依頼があり、鰯・柳たこ・鰯

を50,000円分提供していただき授業で活用しました。

(7) 求人数の減少を見込んだ就職活動の指導を行い、就職内定率93%となった。

4. 広報活動（定員充足への取り組み）

- (1) コロナ禍により年度初めから、旭川・上川地区の進学ガイダンスが軒並み中止となり、10月から2回参加することが出来た。
- (2) 高校訪問はコロナ禍の状況により、訪問を控えなければならないこともあったが、3月～4月と6月、7月、8月に再訪問し、進路指導の先生方に生徒の方向性を聞き取り、連絡を受け入学につながった。
- (3) オープンキャンパスは会食のスタイルを個人盛りとし、距離を空けながら開催しました。特典制度を見直して、新たな特典をオープンキャンパスにて発信。
 - ・旭川市市外の学生へ交通費を月5,000円補助
 - ・3年生でのオープンキャンパス参加が2回以上で入学後5,000円給付
 - ・2年次の進級にあたりチャレンジ試験を導入し、合格者に授業料20,000円減免
 - ・クラブ活動の収益を一部、学生に食べ歩き研修費として一人50,000円補助
- (4) 旭川各種専門学校のチラシを駅前イオンのフードコート、各店舗内、玄関前、エスカレーター前に掲載を予定していたが、コロナ禍で中止になった事から、市内外の生協、ラルズスーパー、飲食店、市役所の玄関ドアに掲示して頂き、旭調のパンフレットも設置していただきました。 ※令和3年度、富良野地区2名の入学生
- (5) 宗谷地区（稚内、天塩、羽幌、雄武町、浜頓別）等を中心とした北海道新聞の折り込みとして広告年間カレンダーを作成し8,000部を令和2年4月1日投函。(B3サイズ 30,000円)
※令和3年度、稚内地区2名の入学生
- (6) 旭川電気軌道バスの駅前発着便、一日130本、中央バスセンター四条駅発着便一日320本の全便に旭調メッセージを車内案内で毎日流した。(1年間198,000円)
北海道新聞折り込みとしてJR時刻表に広告を出した。(44,000円)
- (7) メディアを活用しての広報活動として、北海道経済・メディアあさひかわさんに旭調の出来事やオープンキャンパスのスケジュール、イベントの掲載をして戴いた。
(北海道経済110,000円・メディアあさひかわ55,000円・グラフ旭川2,200円)
北海道新聞折り込みとしてJR時刻表に広告を出した。(44,000円)
- (8) ケーブルテレビで旭調のイベント（販売会や学校祭）を告知。学生の楽しみを伝える動画を収録し生放送で3週間放映。(無料)
- (9) 旭川のフリーペーパー（ライナー広告社）へ毎月1回の料理レシピや広告を掲載し、旭調の魅力を発信。(旭川・近隣地域の家庭15～18万部を配布。通常月額80,000円を12カ月無料にしていた)

5. その他

- (1) 中学校対象の次世代職業人財体験講座の実施。コロナ禍により例年より多くの申し込みがあり190名が調理の道への大切さ、面白さを実感してもらえた。
※北専各より負担金として1,453,000円

- (2) 今期は学生数が減り経費の見直しを検討し、出来る事は自分たちで行い、出来ないものは企業様と話し合いをもうけ削減をしました。
- ・ 玄関前の網戸設置
 - ・ 網戸張替え
 - ・ 全学生の実習用の靴箱 1, 2階に設置→16,000 円
- (3) 電気代の削減を目標にループ電気さんから北電へ変更することで年間 516,000 円削減することができる。 現状令和 2 年 11 月～3 月で 220,000 削減。
- (4) コロナ禍に対し日本学生支援機構から生活に困窮している学生に 40 万円の給付金があり、全学生にお米券にして給付を行った。
- (5) 旭川市から教職員に対し功労金 100,000 円が給付され、各先生方にマスク・消毒用アルコール類などを購入し業務に務めて頂いた。

2020年度大麻幼稚園まんまる保育園 事業報告

1 教育目標

- (1) 縦割りと横わり（0歳～5歳）を実施、乳児部は横割り、幼児部は縦割りを実施しすることができました。
- (2) 縦割りでは年長児が年中・少児を気遣い、年少児が年長児を模倣し、また同年齢の子ども同士が交流する機会を設けることも出来ました。
- (3) 幼児部、縦割りが基本クラスに加え、発達課題の解決に向けて横割りグループの活動も併せて実施できました。
- (4) 屋外活動、体育活動を通して身体活動を推進し、仲間と共に様々な活動を経験する中で夫々の興味を引き出し、協力・協働の意識養成を旨うことができました。
- (5) 乳児部は、精神的、物理的に安心・安全環境を整え、初歩的身辺自立への促しとともに乳幼児の自発性を認めていく保育を行うことができました。

2 指導の重点

- (1) 認定こども園教育・保育要領に準拠しできる限り一人ひとりを大切に、子どもに寄り添いながら発達に応じた支援を心がけました。
- (2) 子どもは、同年齢や異年齢の仲間から行動を主体的に学ぶことが多くまた、周囲の大人からも学ぶことを意識した教育・保育を行いました。
- (3) 教育・保育の中で子どもの発育を連続性（0歳～5歳）のあるものとして取り組みました。
- (4) 特別支援教育の推進を図り、全ての人と「共に生きる」価値観や環境を提供することができました。

3 教育活動の重点

- (1) 認定こども園として0歳から5歳まで連続性・継続性のある教育、保育を心がけました。
- (2) 体育指導、マーチング指導、科学遊びなど専門家による指導を通して、自分の興味や得意に気付く機会を設定することができました。
- (3) 参観日で保護者に園の教育・保育の理念や方針、活動内容を発信し理解を求める計画でしたが、2月に1回の実施に止まりました。
- (4) 増加する預かり保育を年間利用人数、時間帯を考慮し5人体制として充実を図りましたが、人材が得られず2月まで4人体制で実施となりました。
- (5) 大麻西小学校との連携事業は全面中止致となりました。

4 広報活動

- (1) ホームページ充実により園の活動や様子を適宜発信できました。
- (2) 未就園児クラス（にこにこ）と連携し児童や保護者に対して入園をアピールすることができました。
- (3) 地域行事は中止となり地域の大人との交流は出来ませんでした。
- (4) 江別市私立幼稚園連合会のポスター、チラシによる広報を行いました。

5 施設整備

- (1) 園舎内廊下の湧水個所を修理しました。（完全に修繕出来ていません）
- (2) ホール用照明の修理を行いました。
- (3) ホールに換気機能のあるエアコンを設置しました。（コロナ関連補助金）
- (4) ホールフローリング（一部廊下）、を修理し、コーキングを交換しました。
- (5) 保育室の水道元栓を2か所修理しました。
- (6) 全保育室に換気の為、扇風機を設置しました。
- (7) 事務所の間仕切りを撤去し、教師用デスクを設置しました。
- (8) 固定電話回線を4回線に増やし、PC用ルータも大容量に変更しました。

6、その他

- (1) 第11回キッズフェスティバルは、コロナ禍により園単独で行うことが出来ませんでした。
- (2) 教育実習、保育実習により、北翔大学（教育文化学部）、北翔大学短期大学（子ども学科）他専門学校と連携することが出来ました。
- (3) 江別市内中学校・高校の職業体験は実施されませんでした。
- (4) 父母会活動の役員会、秋祭り、資源回収、など協働することができました。

令和2年度 第2大麻こども園 事業報告

1、教育・保育目標

- (1) 模倣を通して育ち合う縦割り保育をより充実させる事ができた。
- (2) 特色ある芸術的教育（自然・遊具・食）の中で、意志の確立を目指す事ができた。
- (3) 自然と愛と美の環境の中で、信頼と絆を培いその子らしさを育てる様、導いた。
- (4) 遊びの中から個々の新たな発見や能力を見出せる様、環境作りを行う事ができた。
- (5) 0～2歳は、体と心の力の土台となる様、愛情豊かに応答的に関わり、5歳までの成長を見通して発達を促していく様、導く事ができた。

2、指導の重点

★子ども達1人1人の軸（意志）を育むために必要な保育とは

- (1) 012歳・345歳の保育計画（カリキュラム）を改めて見直し、この環境の中で更に導き伸ばせるものを取り上げ、保育教諭間で深める
→0から5歳までの担任間で、各年齢の発達について必要項目を見直し、改めて日常生活や活動、行事での育ちなどを振り返り、園の特色を成長の効果に生かす事ができた。
- (2) 子どもが育つ保育空間としての意識、知識、認識を教職員全体で高め合う
→毎年行われる教職員総会、担任カリキュラム打合せ、補助の先生を含めた保育会議等は乳幼児期の教育保育の重要性、園が担う育ちの保証、教職員集団の在り方についてを分かち合い、感謝と誇りを持って現場に立てる様、進めた。
- (3) 園内・園外の研修に積極的に参加し、それについて分かち合い、仲間が何を感じているのか、何を考えているのかに触れ、個々のモチベーションを上げる
→紙面だけでなく、会議の場で発表を意識的に取り入れる等の取り組みを行った。

3、教育・保育活動の重点

- (1) 手をかける事によって、植物が育つ事、動物が生きられる事の当たり前である事が、いつも以上に尊く、感謝に尽きる事だという事を実際を通して子どもや保護者と共に味わう事が出来た。
- (2) この状況だからこそを生かし、発達を導く為の遊具や絵本などを紹介し、いつも以上に、家庭での過ごし方のアドバイスを送る事が出来た。
- (3) 0歳から5歳の7クラスで、担任・補助を意図的に入れ替え、どの年齢にも対応できるよう連携を図り、連続した成長の導きが出来る様、取り組む事が出来た。

4、広報活動（定員確保の為の取り組み）

- (1) 感染対策をしっかりと行いながら見学対応を継続し、対応を行った。
- (2) 入園対象保護者へは全体説明会、個別対応の2本立てで手厚く広報した。
- (3) 未就園児教室は、回数や内容を吟味して行い、この状況下であっても安全に行っているという事を伝えられるチャンスである事を意識して執り行った。

5、施設設備

- (1) ホールエアコン設置 2台
- (2) 安全柵の設置（中学校側）

6、令和2年度 退職職員

- ・副園長 大木桂子（定年退職） ・345歳クラス担任 加藤絢巴（勤続5年）

7、その他

- (1) 新型コロナウイルスの対応（他園との連携・園独自）
- (2) 笑顔を届けようプロジェクト（医療従事者への感謝）への参加（園児・保護者・教職員）
- (3) 北翔大学、短期大学（教育学科・心理カウンセリング学科、子ども学科）
専門学校の実習生の受け入れ
- (4) 市内小規模保育施設との情報交換、見学対応
- (5) 芸術講座（保護者・教職員）（10月）
- (6) 社会オリエントミー講座（教職員）（12月）
- (7) フルート演奏会（園児・教職員・保護者）（2月）
- (8) お父さんの絵本講座（在園・卒園父対象）（2月）
- (9) 卒園児同窓会（3月）

令和2年度 サンサンキッズ・第2 サンサンキッズ事業報告

1 学童保育目標

コロナ禍の中で行事を精選し、実施方法を検討しながら、保育・教育活動を推進してきた。その過程で子ども達に次のような成長が見られた。

- (1) 自ら考えて行動できるようになったこと。(主体的行動)
- (2) 生活のルールを守り、宿題、遊び、おやつ、帰りの会、掃除、読み聞かせという一日の流れが定着したこと。(基本的生活習慣の定着)
- (3) 友達への思いやり、支え合い、助け合う心が育ってきていること。(支え合う心)
- (4) 上の学年が下の学年の世話をし、**他者への優しさ**を強く感じられたこと。
- (5) 子ども達はコロナの感染対策を理解し、マスク・手指消毒・手洗い・黙食、さらに消毒を兼ねた清掃活動も行えるようになったこと。(自己管理)

2 指導の方針

子どもの発達課題をおさえ、子ども達が「**生き生きと自信をもって**」日々の活動ができるように、以下の支援を行った。

- (1) 児童が集団に適応できるよう、さまざまな機会を設定し活動を行った。
(集団遊び、協同制作、グループ行動など)
- (2) 預かるだけでなく、育てるという考え方に立ち、教育活動を進めた。
(個人懇談、音楽活動、落語、羊毛など)
- (3) 安心して過ごせる生活の環境づくり。
(手指消毒、施設点検、三密回避、居心地のよい環境など)
- (4) 状況に応じて2施設(園舎内・トムテハウス)に分かれ、ゆとりある活動を行った。
- (5) 児童理解に努め、一人ひとりに**丁寧なかかわり**を心がけ、支援員と児童との信頼関係を築いた。

3 学童保育事業の実践事項

- (1) 子どもが安心して過ごせる**心の居場所**づくり
 - ① 譲り合い、教材の共有、教え合う雰囲気の中で、子ども達が安心して楽しめる環境づくりができた。
 - ② 宿題、工作(七夕制作、折り紙、自作カルタ、紙版画など)、**文化活動**(紙芝居、読み聞かせなど)で自らの創作工夫と仲間との交流ができた。
 - ③ グループを結成し、グループ名、係を決め、日々の活動・行事は、グループで行動ができた。
- (2) 日々の活動は「学習」「集団・自由遊び」「設定活動」の3本柱
 - ① 学習～宿題、自主的学習課題に取り組ませた。
 - ② 遊びは**創造遊び**を重視した。
 - ③ 設定活動～**羊毛活動**(四季に応じた作品づくり)、**自然観察**(大麻西町公園)、**社会見学**(北海道開拓の村)、**伝統文化**(落語・茶道・もちつき)の体験、そこで得た達成感が次の学びへの意欲につながった。
- (3) 新たに取り入れた活動
 - ① 季節の風物詩を描いた「貼り絵」の作成。(写真で紹介)
 - ② 生活ルールやコロナ防止、1年の活動を紹介するポスターを作成するなど、協同意識の高揚。
 - ③ 新年「**書き初め**」導入。

(4) 動画で配信
令和2年度「ありがとうの会」を動画で配信し、各家庭に子ども達の様子を伝えた。

(5) 小学校、幼稚園、および保護者との連携

- ① 大麻小学校の学校・学年便りを通して情報交換を行った。
- ② 月1回「サンサンつうしん」を発行し、子ども達の状況や活動内容を伝えた。
- ③ 新入会児童の保護者と個人懇談を実施し、子ども理解に努めた。

(6) 外部講師との連携（一例として）

- ① 陶芸体験では、1年生は皿、2年生はコップ、3年生は抹茶椀、4年生は絵本の陶芸作品展に出展し、優秀賞を受賞した。
- ② ホームマックのエコ活動で、段ボールの鉢カミネッコンをつくり、苗木を育てた。
- ③ 月1回お笑い宅急便を招き、腹話術やパネルシアター、手作りの紙芝居、手品などでこども園の園児達との時間を共有した。
- ④ 「音楽で遊ぼう」の活動で、体を動かす（リズム）、音を感じる（絵で表現）、ゲーム（つながる）などを行い、音の世界を深めた。
- ⑤ お茶会は、上級生が下級生にお茶を点て、1年間のしめとして自己を振り返る機会となった。

※コロナ禍で令和2年度に実施できなかった行事

- ・縄文土器ランプづくり・土器野焼き・キャンプ・自然観察（野幌原始林）
- ・カミネッコン植樹・冬の社会見学・報告会・野幌高校生と英語で交流など

4 施設設備 他

- (1) トムテ玄関フード設置
- (2) トムテトイレ手洗い設置
- (3) 学習テーブル、加湿器、空気清浄機、オゾン生成器を購入し環境整備

5 開設日数および措置状況

- (1) 令和2年度開設日数 サンサン 275日 第2サンサン 265日
新型コロナウイルス感染拡大にともなう臨時閉所により開設日数減少。
- (2) 措置状況（登録児童数）
令和2年4月1日 サンサンキッズ 44人 第2サンサンキッズ 41人
令和2年3月1日 サンサンキッズ 38人 第2サンサンキッズ 34人
途中退会児童 サンサンキッズ 6人 第2サンサンキッズ 7人

7 その他

- (1) 毎月の指導員会議において児童の情報交換を行った。
- (2) 月1回、江別市子育て支援課に実施報告（開設日数、在籍の動き、勤務状況など）。
- (3) 北翔大学・酪農学園大学学生を補助指導員として受け入れた。
- (4) こども園と連携して、施設設備の点検、火災・地震・不審者侵入への避難訓練を実施。